

校長室だより

No. 33

平成30年12月14日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよしかず
加藤嘉一

わかっちゃいるけど…

ー変化の速い社会に負けないのはどの世代かー

阪神・淡路大震災(平成7年)の折に、固定電話が不通、携帯電話も充電が切れ、家族との連絡が取れない状況が出ました。その時に活躍したのが、公衆電話と電話会社が用意してくれた特設電話でした。この電話目あてに行列ができました。



【JA三河本店前の公衆電話】

今から13年前(平成18年)に、わたしは6年生を担当していました。その学級で、「今年の総合的な学習は何をやるか」と悩みに悩んだ末、決めた単元が、「大切にしたい公衆電話 考えていきたい携帯電話」と題した実践でした。

この頃はまだスマートホンは出ておらず、携帯電話が普及していた頃です。防犯対策を付加価値にした「こども携帯」も出始め、小学生でも持ち始めていました。当時わたしが勤めていた学校は愛教大附属小学校です。附属小では、下校時になると事務室前の公衆電話によく子供が並んでいました。バスに乗って遠方から来る子供たちが、突然のことがあっていつも通りに下校できなかつたりすると、事務室前やバス停近くにある公衆電話を使って保護者に連絡を取るのでした。もちろん、当時学校で携帯電話の使用は禁止でした。

その頃子供たちの会話の中で、「この前あったはずの公衆電話がなくなった」という話を聞いていました。実際にわたしも公衆電話が減っていることに気付いていました。子供達にとっては切実です。そこで、電話会社の方をお招きし、公衆電話はどのような場所に設置され、回収される電話はどのようなものかなど、質問させていただき授業を行うことにしました。電話会社の方から教えていただいたことは、「通常の公衆電話は基本的に使用率がある基準以上ない場合回収する。ただし、災害などを考え、一定区域に一定の数は最低限置くようにする」「お店等事業所にあるものは、事業所の判断(もちろん毎月使用料がかかる)で決めている」ということでした。公衆電話設置数の推移や携帯電話利用数の推移もグラフで示してくれ、公衆電話の数は激減していく様子がよくわかりました。

これを聞いた子供たちは、「携帯電話利用の増加により公衆電話が減っている現状についてどう思うか、街の人に聞きたい」という思いが高まり、街に出てインタビューをすることにしました。駅周辺ではいろいろな世代に会って話を聞きましたが、少し離れた街でよく出会ったのが高齢者でした。当時の高齢者のみなさんは、携帯電話をもたず家の固定電話や公衆電話を使っていました。

ですから口をそろえて言われたのが、「自分たちは機械に弱いから、公衆電話がなくなると困る」でした。(私の調べだと、本学区の屋外用公衆電話は現在3台だと思います)

その後、携帯電話会社の方にも携帯電話の利用状況や「こども携帯」の資料を送ってもらったり、全校・保護者にアンケートをしたりしました。そして、「採算の取れない公衆電話は減らさざるを得ない状況の中で、わたしたちはどうしていくべきか、携帯電話はどうあるべきか」を何度も議論し、電話会社に一人一人の提案を送ることにしたのでした。子供たちは公衆電話の必要性も、携帯電話の必要性も感じ取っていました。

それから13年がたち、先週7日(金)に、ある携帯会社で4時間半ほどの通信障害が起こって、公衆電話に行列ができたり、無料Wi-Fiスポットに人が集まったりしたニュースを見ました。たぶん、このとき一番強かったのは、携帯をもたない高齢者ではなかったでしょうか。やはりアナログの生活は強いと思います。

8日(土)のPTA委員会で、本校の鈴木先生を講師にし、「子供のSNSの使い方について」学習会をしました。その時の情報交換で「高校生は電話の使い方が間違っている。SNSの無料通話を使っているから、『タダだからいいじゃん』と言ってつなぎっぱなしにし、作業をしながら必要な時だけ友だちとしゃべっている」という例を聞きました。ちょっと電話とは次元の違う使い方の話です。

固定電話から携帯電話へ、携帯電話からスマホへの変化は、たった10数年ですでに電話ではない領域に突入しました。子供のゲーム機も然りです。「時代の変化はものすごいスピードで起こっている」これは百も承知…。しかし、この環境で育つ子供の感覚はわたしたちとどう違うか、少し戸惑います。子供から高齢者まで様々な経験の違いをもつ社会に突入しています。今後も機器は進化します。トラブルに弱くなるのは、子供でしょうか、大人でしょうか。

Aさん:ちょっと質問なんだけど、えっとなんか小学生にも持たせたほうがいいって言うけど、今いる人の中にもほとんど持ってる人はいないんだけど、何で小学生に持たせた方がいいって思うの。

Bさん: Eさんが言ったように、今どこにいるかピピットって言う携帯もあるんですけど、そういう携帯にも防犯ブザーや「ここだよナビ」っていうんだけど、それは今どこにいるか分かるし、ピピットフォンだと引っ張ると、防犯ブザーが鳴っています、という電話が自動にかかるからそういう携帯を持っていれば、危なくないし、その方が勇気が出る。

T: はい、Cさん。

Cさん: えっと、僕は、Bさんたちに反対で、まずお年寄りの人とか子ども携帯料金の話が多くて、みんな防犯のため防犯のためというけど、電話もしないのに防犯、そういうのがいつ起こるかわからないのに、ま、いっばいすごいお金を払うから、一回ブザーを買って防犯ブザーなどを買えば、それでもう必要なときに鳴らすだけだから、わざわざ携帯が必要ってことではないと思う。

T: Dさん、どうぞ。

Dさん: えっと、私は町でお年寄りの人に聞いたんだけど、携帯を持っている人って言ったら、やっぱり携帯を持っていない人が多くって、で、さっきAさんが言ったようにどうして持っていないかって聞いたら、操作の仕方がわからないとか、公衆電話と違って、1回電話するだけですごいお金がかかることとかいっばいあって、なので、公衆電話を増やすべきだと思ったんだけど、その公衆電話を一度なくしてしまったところにもう一回増やすのは無理だから難しいな、と思いました。
【当時の授業記録より】